
眩き

相楽 篠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眩き

【Nコード】

N2303L

【作者名】

相楽 篠

【あらすじ】

白い景色。ホワイトアウトって言うのかな？

きっと彼女は帰りたかった。

(前書き)

暗いです、ご注意ください。

シルバレーインを知らなくても普通に読めるように書いています
りですっ！

めちゃ短いです。

(景色が白くなつてく……。ホワイトアウトつて言うのかな?)
自縛霊の一撃、2度目の一撃で彼女は戦死した。
自縛霊特有のテリトリーでの攻撃。ダメージは大きかった。
彼女の黒髪が揺れる、彼女の紅い瞳が涙を零している。

けど、彼女は笑っていた。涙を零しながらも彼女は笑顔だった。
彼女の口が動いた。声は聞こえないけど口の動きは「アリガトウ」
と動いている。他の能力者たちの動きが止まる。

「斬ッ」

斬撃は魔剣士のものだろうか？自縛霊の叫ぶ声。

「炎の力よ、私に力をつ」魔弾術士の炎の魔弾が放たれる。

1体目の鎖に繋がれた2mほどの赤ん坊が消滅した。

残りの自縛霊は1体。先ほどの自縛霊と同じ容姿だった。

「消えてなくなれっ！」白燐蟲使いがアビリティを放つ。

どこからともなく、スパナが飛んできた。

スパナは見事に自縛霊に命中、自縛霊の悲しい高い叫び声。

「今度は俺の番、か……」(だるいけど)と言おうとしたが飲み込む。
一人失ったんだから。

「…震脚」無表情なまま、俺はアビリティをたたきこむ。

自縛霊は消えていく。そして彼女も消えた。

この力は理不尽を打ち砕くために、あるはずだ。

数日後、俺は彼女の口癖を思い出した。

『百万回の必然なんかより、偶然の方がすごいよ』

その通りだよ。いきなりいなくなるなんて。
偶然なのかな、コレ？

(後書き)

落ちが謎、反省ですっ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2303/>

咳き

2010年12月19日04時39分発行